



# 首相には、街の声、医療関係者の声を聞いて欲しい

夕刊紙に『コロナ禍でも朝昼晩「外食フルコース」の贅沢三昧』というタイトルが出ていた。

## 総理の会食相手は

左のURL、QRコードはNHKの「政治マガジン」。その「総理、きのう何たべた」の項で首相の会食の場所と相手が分かる。

例えば十二月三日には朝はホテル東急、昼会食、夕は麻布の中華で会食。

内閣官房が払う時は税金から。相手が払う時は「接待」。それは賄賂では？

## 一般国民は

一般国民はコロナ禍で、解雇、雇い止めに遭い、仕事を探しても



<https://www.nhk.or.jp/politics/souri/search/index.html>

見つからない。親が失業、進学を諦める。アルバイトがなくなり学資、生活費を稼げずやむなく退学。子供に食べさせるのがやっと、自分ほろくに食べられないという母子家庭。お店を開けてもコロナで客は来ない。旭川では医療崩壊が始まりつつある。医療関係者はコロナで仕事が多忙なのにボーナス削減。我々にはこんな話ばかり聞こえてくる。菅首相は「国民の為に働く」と云ったが、その「国民」とはホテルや料亭でフルコースの会食の相手？

新型コロナで全国民が危機に瀕している今、首相には街に出かけ、病院を訪れ、巷に溢れる国民の声をつぶさに聞いて貰いたい。あなたはどう思われますか？

## 糸屋さん

横浜市南区前里町

二〇二〇年十二月



糸の専門店が、京急黄金町駅の近くにある。平戸桜木道路を桜木町に向けて、進むと、前里町一丁目交差点の右手に見える。昭和二十八年（一九五三年）創業と言う。

この店の裏、京急線の先を大岡川が流れる。上流には多くの染染工場があった。開港以来、横浜の重要な産物スカーフやハンカチの布を染めていた。

スカーフ等を手ヤミシンで縁縫いする家や町工場も沢山あった。スカーフやハンカチを手を持って見て欲しい。非常に細い糸で縫っている。

この店はこうした特殊な工業用の糸を扱う。外から見える棚や店内の棚に、片手に余るような大巻の糸がぎっしり。何種類あるか、お店の方にも分からないとか。

